

## 田中復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録

(令和元年10月30日(水) 16:28～16:33

於) 福島復興局5階特別会議室)

### 1. 発言要旨

昨日10月29日は、福島市にある復興公営住宅の北沢又団地で住民やコミュニティ交流員の方々から、団地での生活の様子やその中の御苦労話などについてお話をお伺いしました。

本日10月30日は、飯舘村の長泥地区で除去土壌の再生利用実証事業の視察をいたしました。また、浪江町の福島水素エネルギー研究フィールドで、再生エネルギー由来の電気を使った水素製造の様子を視察を行いました。また、南相馬市の福島ロボットテストフィールドで、研究棟の視察及び入居企業との意見交換、福島では福島復興再生総局幹部会合の開催と福島復興局職員への訓示を行ったところでございます。

会合では、福島復興局、原子力災害現地対策本部及び福島地方環境事務所から現状について報告を受け、意見も交換させていただきました。また、関係機関の現地での連携を一層強め、被災者に寄り添いながら、福島の生業(なりわい)、農業の再生を始めとする復興の加速化に全力で取り組んでいく、このようなことをお互いに申し上げ、誓い合ったところです。

以上でございます。

### 2. 質疑応答

(問) 先ほどの会合の御挨拶の中で、今回の台風19号の影響ということで、フレコンバック流出の点、土壌の関係で影響が見られるということで、特定復興再生拠点の整備のスケジュール感とか、そういった影響というのはないという認識なのでしょうか。

(答) 私どもも今、全ての情報を十分に確認することについて腐心しておるところでございます。今のところ、いろんな状況を総合的に判断しましたところ、復興事業については、私は差し支えない、順調に運んでいくと認識しておるわけでございます。いずれにしても、今回の19号、それに続く豪雨の被害というのは甚大でありますし、状況については新しいこともまだ出てくるかもしれませんし、私どももその点については注意してまいりたいと思っております。

また、当然フレコン(大型土のう袋)のお話があったわけですが、環境省においても、管理をされる各市町村とも十分に連携を取ってきちっと対応していくということを、改めて御確認いただいております。今後十分な対応が図れる

と存じております。

以上でございます。

(問) 先ほどのフレコンの話をもうちょっと追加で伺いたいです。仮置き場の位置とかについて見直すとか。早期に搬出してくれというふうに働きかけている最中だとは思いますが、フレコンの今の現状について見直しとか、あるいはさらなる再発防止対策、補充とか、そういうお考えはありますでしょうか。

(答) 環境省のほうで市町村の管理をされるお立場と合わせて、十分に対応することだと思っております。今後、環境省とは十分連携を取りながら、問題のないように対応してまいりたいと思っております。

(以 上)